

福祉サービス評価について

和歌山県福祉事業団では、平成17年度より、事業団評議員による施設サービス評価委員会を設置し、普段職員が気付かないこと、不十分なことを第三者の方から助言・提言していただくことで利用者の方の権利擁護と生活の質の向上を図ることを目的に施設のサービス評価を実施しました。その評価における総評ならび、今後取り組んでいかなければならない事柄（改善すべき項目、助言項目）に基き、施設の今後の取り組みを公表いたします。

実施日 平成29年12月15日（金）
施設名 児童デイサービスあい・らんど／生活介護事業所あい・らんど
評価者 岡本文夫（事業団評議員・元NPO法人あかり作業所理事長）
公表日 平成30年6月

総 評

特に重度の利用児・者の方々が利用されている中で、先進的な取り組み（活動）が実践されていきました。これまでの活動をより発展させていながら、今後も利用児・者の方々に寄り添ったサービスが提供されることを願います。

また、日頃の活動に加えて、利用児・者の方々や保護者の方々と話し合う機会を多くとり、事業所に対しての不満等も含めた意見を汲みとりながら、事業所運営に還元していくことを今後、期待します。

29年度 福祉サービス評価

項 目	評価の内容	改善項目に対する今後の取り組み	目標期限
事業所環境	乳児院の跡地ということで、古い建物ではありますが、整理されており、きれいに活用されていました。また、特に重度の利用児・者の方々に利用いただいているということで、各所に様々な配慮が見受けられました。ただ、1階のシャワー室に空調設備がありませんでしたので、早急にエアコンを設置する等、対応して下さい。	環境整備と清掃、整理整頓など心掛けて利用者の方々が利用しやすい事業所を運営していきます。利用者の方々、ご家族からの意見を反映しつつ、職員の支援の中から出てくるハード面の改善点も吸い上げてより良い事業所を整備運営していきたいと考えます。	早期

項 目	評価の内容	改善項目に対する今後の取り組み	目標期限
<p>人権擁護 虐待防止</p>	<p>利用者の方々の人権擁護・虐待防止に向けて様々な研修を実施しているところですが、併せて、職員間でのチェック機能を強化して下さい。そのためには、日頃からの連携や支援に対して、互いに互いを指摘・評価していける仕組み作りの構築を願います。</p>	<p>年2回の人権研修に加え、毎月の職員会議で具体例を挙げながら、振り返りをする時間を設定します。また、職員相互の指摘や評価について mink メモの活用により、いいと思うこと、支援に疑問を感じるなどについても発言しやすいように努めます。</p>	<p>早期</p>
<p>利用児・者支援</p>	<p>特に重度の障害児・者の方々を受け入れを行なっており、個々人にあった活動への配慮が見受けられました。</p> <p>特徴的な活動として、児童デイサービスでは、重度利用児でも楽しめる設備（スパイダー）を設置しており、生活介護事業所では農業活動を取り入れ、活動内容が充実している印象を受けました。</p> <p>農業活動については、現在の畑での野菜栽培に加えて、水耕栽培を事業所内で実施する予定とのことで、重度の利用者の方でも参加でき、その栽培・成長過程を楽しみながら経験できることは、利用される方にとっては大きな楽しみに繋がると思います。</p> <p>今後も利用児・者の方々を楽しみを汲み取り、その方々に合った活動へと反映していかれることを願います。</p>	<p>重度利用児への支援の充実は障害の程度を問わず全ての方々にとっての充実にあてはまるものだと考えています。</p> <p>スパイダーは設備ですがそれらを有効的に活用できるよう職員の知識や技術、理論についても充実できるように努めていきます。</p> <p>農業活動についても水耕栽培を取り入れ従来の屋外、土壌栽培に加えて室内、屋内、天候に左右されない作業という障害の重軽問わない活動の参加を実現できるものとして努めていきたいと考えます。</p>	<p>1年</p>

<p>コミュニケーション</p>	<p>現在社会においては、特に若年層におけるコミュニケーション能力の低下が顕著となっており、障害福祉サービス事業所等においても、利用者の方々はもちろん、その保護者の方々とのお話、関係機関との連携は大切になります。</p> <p>児童デイサービスにおいては、保護者の方との連絡方法として、連絡ノートが活用されていますが、連絡ノートだけではなく、保護者の方と直接会話することも心掛けてください。</p> <p>より良い事業所運営は、利用者・保護者の方々から様々な意見を頂き、話し合い・応えていくことが基本となりますので、今後も職員から積極的に「会話」し、意見をもらえるような関係性を構築していかれることを願います。また、そのためには、「会話する力」を職員個々が身に付けていく必要がありますので、コミュニケーションスキルの向上に繋がる取組みも併せて実施して下さい。</p>	<p>支援計画の見直しや更新について、保護者と面談する時間を設定していますが、なにか出来事があった時だけ報告するのではなく、送迎時等も活用し、日ごろから良いことも保護者に積極的に伝えコミュニケーションを深めていくよう努力していきます。</p> <p>利用者との個別の会話を大切にしながら、定期的を開催している自治会の中で、問いかけしながらもっと発言し易い環境を作れるように努めていきます。</p> <p>職員の会話する力や相談技術の向上を図るため講師を招き、研修を計画します。</p>	<p>1年</p>
------------------	---	--	-----------